

令和4年度 財務諸表に対する注記

1 継続事業の前提に関する注記

継続事業の前提に重要な疑義を抱かせる事象又は状況はない。

2 重要な会計方針

会計処理の方法及び開示様式については、新公益法人会計基準(「平成20年改正基準」平成20年4月11日内閣府公益認定等委員会設定)を採用している。

(1) 有価証券の評価基準及び評価方法

該当なし

(2) 棚卸資産の評価基準及び評価方法

該当なし

(3) 固定資産の減価償却の方法

- ① 固定資産の減価償却法は定額法を採用している。平成19年3月31日以前に取得したものについては旧定額法、平成19年4月1日以後に取得したものについては定額法を採用している。
- ② 所有権移転ファイナンス・リース取引に係るリース資産(総額300万円以上)については、自己所有の固定資産として計上し、減価償却法についても自己所有に準じた処理を行っている。
- ③ 所有権移転外ファイナンス・リース取引に係るリース資産(総額300万円以上)については、リース期間を耐用年数とし、残存価額をゼロとする定額法を採用している。
- ④ 300万円未満のファイナンス・リース取引については、重要性が乏しいとの判断により、賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理を行っている。

(4) 引当金の計上基準

- ① 退職給付引当金・・・職員の退職給付に備えるため、自己都合による当期末要支給額を計上している。
- ② 賞与引当金・・・職員に対する賞与の支給に備えるため、支給見込額のうち当期に帰属する額を計上している。

(5) 消費税等の会計処理

消費税等の会計処理は税込方式によっている。

(6) 積立資産の種類とその限度額

- ① 財政調整基金積立資産
事業運営上の不測の事態による収入減を補填し、財政の安定を図るための積立金として、収益事業会計については当該年度の手数料(年額)の10%相当額から当該年度の前年度末までに積み立てられた財政調整基金積立資産の累計額(当該年度において取崩しを予定しているものを除く。)を差し引いた金額を超えない額としている。
- ② 退職給付引当資産
退職金の支払準備のために積み立てる経費として、当該年度の翌年度以降5年以内に退職が見込まれる者に支給する退職金要支給額の5分の1に相当する額を超えない額としている。
- ③ 減価償却引当資産
当該年度末に保有する建物や電算処理システム等の固定資産(減価償却費の対象となる物品を含む。)における減価償却累計額を超えない額としている。
- ④ ICT積立資産
ICT等を活用した審査支払業務等の高度化・効率化のための積立金として、手数料の30%を超えない額としている。

3 会計方針の変更

該当なし

4 基本財産及び特定資産の増減及びその残高

基本財産及び特定資産の増減額及びその残高は、次のとおりである。

(単位:千円)

科 目	前期末残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高
基本財産	0	0	0	0
小 計	0	0	0	0
特定資産				
退職給付引当資産	217,999	90,705	143,011	165,693
財政調整基金積立資産(一般)	404,967	5	21,400	383,572
財政調整基金積立資産(国業)	182,686	183,172	182,686	183,172
財政調整基金積立資産(後業)	160,890	166,430	160,890	166,430
財政調整基金積立資産(介業)	54,775	55,930	54,775	55,930
財政調整基金積立資産(障業)	19,801	20,553	19,801	20,553
財政調整基金積立資産(特業)	0	0	0	0
減価償却引当資産(一般)	147,955	32,534	43,543	136,946
本会分減価償却引当資産(国業)	1,344,500	431,406	421,318	1,354,588
市町村分減価償却引当資産(国業)	921,730	344,792	931,434	335,088
減価償却引当資産(後業)	327,302	118,457	104,213	341,546
減価償却引当資産(介業)	190,013	25,343	1,191	214,165
減価償却引当資産(障業)	26,066	4,426	339	30,153
減価償却引当資産(特業)	44,002	19,044	5	63,041
ICT等積立資産(国業)	404,064	513,663	404,064	513,663
ICT等積立資産(後業)	250,047	201,599	250,047	201,599
ICT等積立資産(介業)	131,144	123,580	131,144	123,580
ICT等積立資産(障業)	53,058	49,190	53,058	49,190
ICT等積立資産(特業)	1	1	1	1
建物	900,598	0	27,177	873,421
建物附属設備	2,316	0	412	1,904
什器備品	104,274	306	86,385	18,195
ソフトウェア	519,015	155,231	339,172	335,074
ソフトウェア仮勘定(特定)	72,607	0	72,607	0
小 計	6,479,810	2,536,367	3,448,673	5,567,504
合 計	6,479,810	2,536,367	3,448,673	5,567,504

注1:財政調整基金積立金(一般)には、旧退職手当積立金分 326,333,526円、旧事業運営資金積立金分 57,238,099円を含めて管理している。

注2:H29年期末から、減価償却引当資産(国業)について、本会分資産と市町村分資産を分けて管理することとしている。

5 基本財産及び特定資産の財源等の内訳

基本財産及び特定資産の財源等の内訳は、次のとおりである。

(単位:千円)

科 目	当期末残高	(うち指定正味財 産からの充当額)	(うち一般正味財 産からの充当額)	(うち負債に対応 する額)
基本財産	0	0	0	0
小 計	0	0	0	0
特定資産				
退職給付引当資産	165,693	—	—	(165,693)
財政調整基金積立資産(一般)	383,572	0	(383,572)	—
財政調整基金積立資産(国業)	183,172	0	(183,172)	—
財政調整基金積立資産(後業)	166,430	0	(166,430)	—
財政調整基金積立資産(介業)	55,930	0	(55,930)	—
財政調整基金積立資産(障業)	20,553	0	(20,553)	—
財政調整基金積立資産(特業)	0	0	(0)	—
減価償却引当資産(一般)	136,946	0	(136,946)	—
本会分減価償却引当資産(国業)	1,354,588	0	(1,354,588)	—
市町村分減価償却引当資産(国業)	335,088	(335,088)	(0)	—
減価償却引当資産(後業)	341,546	0	(341,546)	—
減価償却引当資産(介業)	214,165	0	(214,165)	—
減価償却引当資産(障業)	30,153	0	(30,153)	—
減価償却引当資産(特業)	63,041	0	(63,041)	—
ICT等積立資産(国業)	513,663	0	(513,663)	—
ICT等積立資産(後業)	201,599	0	(201,599)	—
ICT等積立資産(介業)	123,580	0	(123,580)	—
ICT等積立資産(障業)	49,190	0	(49,190)	—
ICT等積立資産(特業)	1	0	(1)	—
建物	873,421	(72,661)	(800,760)	—
建物附属設備	1,904	(1,904)	(0)	—
什器備品	18,195	(18,195)	(0)	—
ソフトウェア	335,074	(326,805)	(8,269)	—
ソフトウェア仮勘定(特定)	0	(0)	(0)	—
小 計	5,567,504	(754,653)	(4,647,158)	(165,693)
合 計	5,567,504	(754,653)	(4,647,158)	(165,693)

6 担保に供している資産

該当なし

7 固定資産の取得価格、減価償却累計額及び当期末残高

固定資産の取得価格、減価償却累計額及び当期末残高は、次のとおりである。

(単位:千円)

科 目	取得価額	減価償却累計額	当期末残高
建物	1,579,662	658,504	921,158
建物附属設備	1,037,474	932,249	105,225
構築物	31,590	29,824	1,766
什器備品	1,594,654	1,480,543	114,111
土地	355,942	0	355,942
リース資産	20,736	19,699	1,037
ソフトウェア	4,086,409	3,596,991	489,418
合 計	8,706,467	6,717,810	1,988,657

8 債権の債権金額、貸倒引当金の当期末残高及び当該債権の当期末残高

債権の債権金額、貸倒引当金の当期末残高及び当該債権の当期末残高は次のとおりである。

(単位:千円)

科 目	債権金額	貸倒引当金の 当期末残高	債権の当期末残高
未収金	82,828,801	0	82,828,801
短期貸付金	0	0	0
合 計	82,828,801	0	82,828,801

9 保証債務等の偶発債務

該当なし

10 満期保有目的の債券の内訳並びに帳簿価額、時価及び評価損益

該当なし

11 補助金等の内訳並びに交付者、当期の増減額及び残高

補助金等の内訳並びに交付者、当期の増減額及び残高は、次のとおりである。

(単位:千円)

補助金等の名称	交付者	前期末残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高	貸借対照表上の記載区分
審査支払事業等補助金	厚生労働省	0	14,146	13,879	267	一般正味財産
保険運営安定化対策事業補助金	〃	1,232	14,202	15,434	0	〃
後期高齢者医療制度関係業務事業補助金(特別徴収)	〃	2,718	16,113	18,711	120	〃
高齢者医療制度円滑運営臨時特例交付金	〃	0	1,563	103	1,460	〃
被災者に対する特別措置についての周知事業	〃	0	240	240	0	〃
介護保険事業(補足給付の資産勘案に係る年金情報経由業務)	〃	0	198	198	0	〃
保険者共同事業 市町村事務処理標準システムのクラウド	〃	0	2,415	2,415	0	〃
年金生活者支援給付金支給準備事業	〃	0	28	28	0	〃
新型コロナウイルスワクチン接種体制確保事業(代行機関システム改修分)費国庫補助金	〃	0	1,320	1,320	0	一般正味財産
国民健康保険制度関係業務準備事業(情報集約システム構築経費)	〃	86,641	0	52,121	34,520	指定正味財産
国保データベース(KDB)システムの機器更改等事業(一般・後期分)	〃	2,228	0	856	1,372	〃
介護保険苦情処理事業補助金	北海道	0	14,777	14,777	0	一般正味財産
介護給付適正化事業補助金	〃	0	7,981	7,981	0	〃
国保会館建設補助金	北海道	74,939	0	2,278	72,661	指定正味財産
北海道クラウド等受入金(運用経費等)	市町村及び国保組合	0	157,904	157,904	0	一般正味財産
北海道クラウド等受入金(構築経費及び更新積立金)	〃	1,375,980	453,449	1,424,417	405,012	指定正味財産
国保情報集約システム受入金(運用経費)	市町村	0	155,327	155,327	0	一般正味財産
国保情報集約システム受入金(更新積立金)	〃	180,531	45,132	0	225,663	指定正味財産
合計		1,724,269	884,795	1,867,989	741,075	

注: 審査支払事業等補助金(267千円)、高齢者医療制度円滑運営臨時特例交付金(120千円)、後期高齢者医療制度関係業務事業補助金(1,460千円)の当期末残高については、来年度に返還するため預り金として負債に計上した。

12 指定正味財産から一般正味財産への振替額の内訳

指定正味財産から一般正味財産への振替額の内訳は次のとおりである。

(単位:円)

内 容	金 額
経常収益への振替額	
減価償却費計上による振替額	423,742,066
固定資産除却損計上による振替額	0
経常外収益への振替額	
目的達成による指定解除額	
合 計	423,742,066

13 関連当事者との取引の内容

該当なし

14 重要な後発事象

該当なし

15 その他の資産、負債及び純財産の状態並びに純財産増減の状況を明らかにするために必要な事項

該当なし